

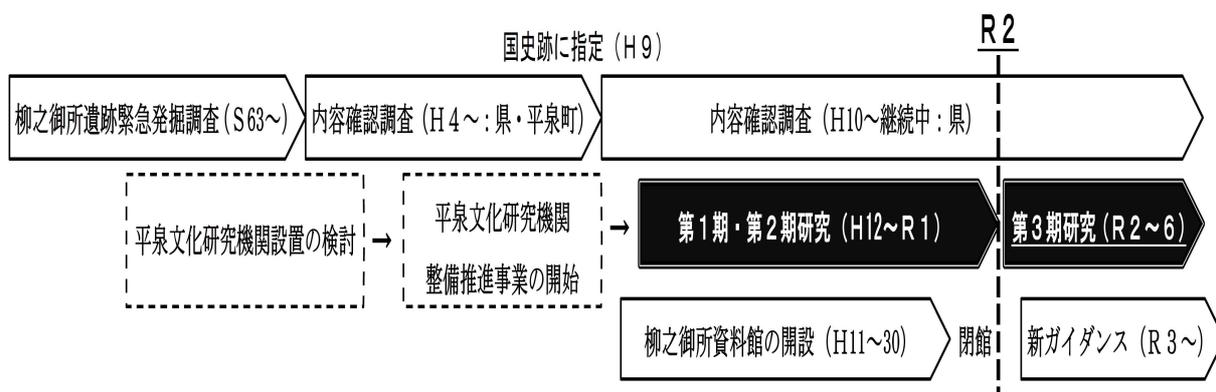
平泉文化の総合的研究基本計画（第3期）【概要版】

岩手県・岩手県教育委員会

1 研究の経緯と内容

県では「平泉文化研究機関整備推進事業」に基づき、第1期研究計画（H12～21年度）及び第2期研究計画（H22～R元年度）を通して継続的に研究を推進し、多くの成果を蓄積するとともに、毎年度、「平泉文化フォーラム」及び「平泉文化研究年報」により成果を公開してきたものである。

【研究と調査の経過】



2 第3期研究計画の実施期間

5カ年（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）

→ 「平泉」の世界遺産拡張登録を見据えた5カ年の研究計画とする。

※ 予算事業名：「平泉文化研究機関整備推進事業」、「世界遺産登録推進事業」、「世界遺産平泉保存活用推進事業」

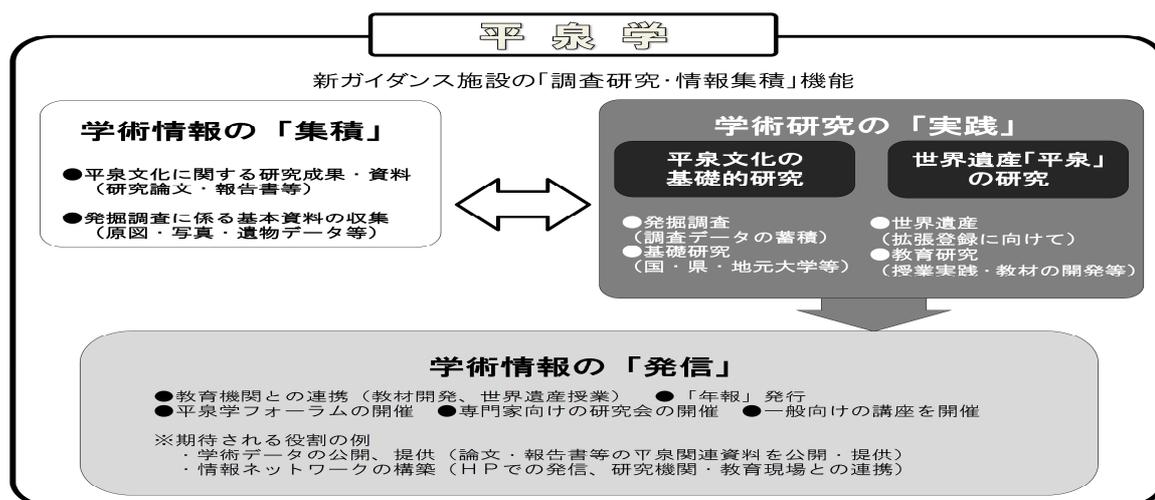
3 研究テーマと共同研究者

第3期研究計画における研究テーマは、第2期研究計画の成果と課題を踏まえ、下表のとおり5つのテーマを設定した。

No.	第3期研究計画のテーマ	共同研究者
①	柳之御所遺跡の考古学的研究 (堀内部地区と堀外部地区との関係性)	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの発掘調査
②	平泉の彼岸と此岸の造形に係る比較研究	国等の研究機関研究者との共同研究 (世界遺産登録推進事業との連携)
③	出土文字資料の集成的研究	
④	東・北アジアにおける政治拠点と平泉の比較研究	岩手大学との共同研究
⑤	学校教育における世界遺産の教材化についての研究	

4 研究の実践（『平泉学』と「平泉の文化遺産」ガイダンス施設（仮称））

【研究フレームのイメージ】



4 成果の公開（毎年度実施）

- ・「平泉学研究会」：研究者を対象。専門性を高め研究討議を実施。
- ・「平泉学フォーラム」：一般を対象。従来の「平泉文化フォーラム」を再編。
- ・「平泉文化研究年報」：平成12年度から継続刊行。県と岩手大学との研究成果を収録。
- ・「平泉学研究年報」：令和2年度から新規刊行。県と国研究機関等の研究者との研究成果を収録。

5 今後の方針

第3期研究計画においては、世界遺産の拡張登録を見据えた内容が柱となっていることから、岩手県及び岩手県教育委員会が合同で研究を実施することとした。

今後は、「平泉」の研究に多くの実績を持つ岩手大学と、国等の研究機関等との連携を深化させ、平泉研究の成果を国際的に情報発信することを目指すものである。

ガイダンス施設（令和3（2021）年の秋以降に開設予定）において、*『平泉学』（＝「平泉文化」に係る総合的な学術研究領域）を実践の柱として研究計画を進める。ガイダンス施設の基本計画では「平泉文化の多角的な調査・研究と研究者の交流拠点として、学術情報が集積し活用される施設」と示されており、学術研究の拠点として研究計画を推進する。

国等の研究機関の研究者との共同研究については、将来的に国立博物館の誘致を目指す足掛かりとするため、平泉に国等の研究者が滞在し研究に取り組むことを想定している。

*『平泉学』：「平泉の文化遺産」をはじめとする情報発信力を強化するため、「平泉学」を軸とした学術研究に基づく情報発信等を充実します。（「いわて県民計画（2019～2028）」より）